

F05 too
I.D.S.

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開実用新案公報 (U)

(11) 実用新案出願公開番号

実開平5-91057

(43) 公開日 平成5年 (1993) 12月10日

(51) Int. Cl. ⁵

H 0 4 M 1/27

1/56

識別記号

庁内整理番号

7190-5K

7190-5K

F I

技術表示箇所

審査請求 未請求 請求項の数10 (全 3 頁)

(21) 出願番号 実願平3-62164

(22) 出願日 平成3年 (1991) 7月12日

(71) 出願人 591171482

永田 親弘

東京都江戸川区清新町1-1-20

(72) 考案者 永田 親弘

東京都江戸川区清新町1-1-20

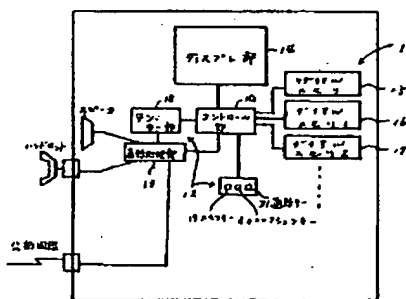
(74) 代理人 弁理士 川崎 仁

(54) 【考案の名称】 電話機

(57) 【要約】

【構成】 本考案の電話機は、コントロール部と、このコントロール部に、それぞれ接続されたメモリ部、ディスプレイ部、テンキー部、および通話キーと、ダイアリングを行うための通話処理部とを備え、前記コントロール部は、通話中に、テンキー部において電話番号が押されたとき、この電話番号を、前記ディスプレイ部に表示するとともに、前記メモリ部に記憶し、その通話が終了し、次の通話の際、通話キーが押されると、前記メモリ部に記憶されている電話番号を、前記通話処理部をして自動的にダイアリングを行わせるようになっていることを特徴とするものである。

【効果】 本考案の電話機によれば、通話中に聞いた第三者の電話番号を電話機内部の機能を用いて記憶させ、しかもこの記憶させた電話番号を自動的にダイアリングできるようにしたので、極めて実用上の効果が大きい。また、記憶した電話番号をディスプレイ部に表示するようにしたので、電話番号の記憶間違いがない。



1

【実用新案登録請求の範囲】

【請求項1】 コントロール部と、このコントロール部に、それぞれ接続されたメモリ部、ディスプレイ部、テンキー部、および通話キーと、ダイアリングを行うための通話処理部とを備え、前記コントロール部は、通話中に、テンキー部において電話番号が押されたとき、この電話番号を、前記ディスプレイ部に表示するとともに、前記メモリ部に記憶し、その通話が終了し、次の通話の際、通話キーが押されると、前記メモリ部に記憶されている電話番号を、前記通話処理部をして自動的にダイアリングを行わせるようになっていることを特徴とする電話機。

【請求項2】 メモリキーを更に備え、前記通話中の電話番号のメモリ部への記憶が、前記メモリキーを押した後にテンキー部を押した電話番号を行うようになっていることを特徴とする請求項1の電話機。

【請求項3】 前記メモリキーが通話キーを兼ねていることを特徴とする請求項2の電話機。

【請求項4】 コントロール部がマイクロコンピュータで構成されていることを特徴とする請求項2または3の電話機。

【請求項5】 前記コントロール部が、前記メモリ部に記憶されている電話番号でのダイアリング後、メモリ部に記憶された電話番号を消去するようになっていることを特徴とする請求項1、2、3または4の電話機。

【請求項6】 コントロール部と、このコントロール部に、それぞれ接続された複数のメモリ部、ディスプレイ部、テンキー部、メモリキーおよび通話キーと、ダイアリングを行うための通話処理部とを備え、前記コントロール部は、通話中に、メモリキーの押しに続いて、テンキー部における電話番号の押しが一回または複数回あったとき、この電話番号を前記ディスプレイ部に表示するとともにメモリ部に順次記憶し、その通話が終了し、次の通話の際、通話キーが押されると、前記第1番目のメモリ部に記憶されている電話番号を、前記ディスプレイ部に表示するとともに、前記通話処理部をして自動的にダ

2

イアリングを行わせ、このダイアリングによる通話後、再び通話キーが押されると、次のメモリ部の電話番号のダイアリングを行い、これを順次行うようになっているようになっていることを特徴とする電話機。

【請求項7】 前記複数のメモリ部に番号が付けられており、通話キーの次にテンキー部のテンキーでその番号を指定すると、前記コントロール部が、その番号のメモリ部に記憶されている電話番号を、前記ディスプレイ部に表示するとともに、前記通話処理部をして自動的にダイアリングを行わせるようになっていることを特徴とする請求項6の電話機。

【請求項8】 前記メモリキーが通話キーを兼ねていることを特徴とする請求項6または7の電話機。

【請求項9】 前記コントロール部が、マイクロコンピュータで構成されていることを特徴とする請求項6、7または8の電話機。

【請求項10】 コントロール部が、前記メモリ部に記憶されている電話番号でのダイアリング後、メモリ部に記憶された電話番号を消去するようになっていることを特徴とする請求項6、7、8または9の電話機。

【図面の簡単な説明】

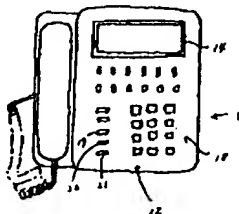
【図1】 本発明の実施例による電話機の全体概略図である。

【図2】 上記電話機に用いられる回路構成のの構造説明図である。

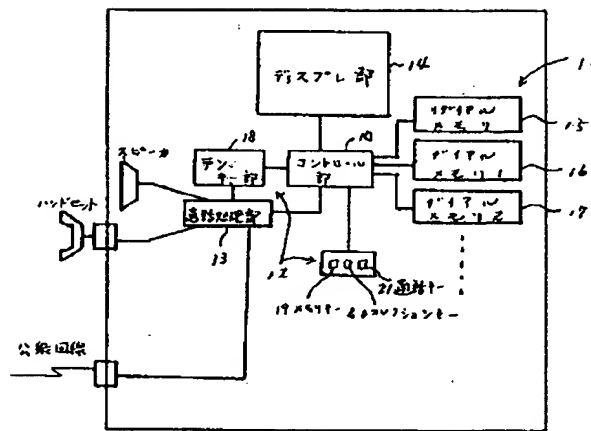
【符号の説明】

- 1 電話機
- 10 コントロール部
- 11 メモリ部
- 13 通話処理部
- 14 ディスプレ部
- 16、17 ダイアルメモリ
- 18 テンキー部
- 19 メモリキー
- 20 コレクションキー
- 21 通話キー

【図1】



【図2】



【考案の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】

本考案は、電話機に関するものである。

【0002】

【従来の技術および考案が解決しようとする課題】

現在、コミュニケーションのために、電話がよく使用されている。ところで、公衆電話等で電話をし、電話をかけるために、第三者等の電話番号を聞いたとき、メモ帳や筆記具がない場合があり往生する場合がある。

【0003】

そこで、本発明は、上記のように電話番号を聞いた場合、次の通話のときに、その電話番号のダイアリングを極めて簡単に行うことができる電話機を提供することを目的とするものである。

【0004】

本考案の電話機は、コントロール部と、このコントロール部に、それぞれ接続されたメモリ部、ディスプレイ部、テンキー部、および通話キーと、ダイアリングを行うための通話処理部とを備え、前記コントロール部は、通話中に、テンキー部において電話番号が押されたとき、この電話番号を、前記ディスプレイ部に表示するとともに、前記メモリ部に記憶し、その通話が終了し、次の通話の際、通話キーが押されると、前記メモリ部に記憶されている電話番号を、前記通話処理部をして自動的にダイアリングを行わさせるようになっていることを特徴とするものである。

【0005】

上記電話機は、メモリキーを更に備え、前記通話中の電話番号のメモリ部への記憶が、前記メモリキーを押した後にテンキー部を押した電話番号を行うようになっていることが望ましい。また、前記メモリキーは通話キーを兼ねていることが望ましい。

【0006】

上記コントロール部はマイクロコンピュータで構成すればよい。また、このコ

ントロール部は、前記メモリ部に記憶されている電話番号でのダイアリング後、メモリ部に記憶された電話番号を消去するようになっていることが望ましい。

【0007】

本考案の電話機はまた、コントロール部と、このコントロール部に、それぞれ接続された複数のメモリ部、ディスプレイ部、テンキー部、メモリキーおよび通話キーと、ダイアリングを行うための通話処理部とを備え、前記コントロール部は、通話中に、メモリキーの押しに続いての、テンキー部における電話番号の押しが一回または複数回あったとき、この電話番号をメモリ部に順次記憶し、その通話が終了し、次の通話の際、通話キーが押されると、前記第1番目のメモリ部に記憶されている電話番号を、前記ディスプレイ部に表示するとともに、前記通話処理部をして自動的にダイアリングを行わさせ、このダイアリングによる通話後、再び通話キーが押されると、次のメモリ部の電話番号のダイアリングを行い、これを順次行うようになっているようになっていることが望ましい。

【0008】

前記複数のメモリ部に番号が付けられており、通話キーの次にテンキー部のテンキーでその番号を指定すると、前記コントロール部が、その番号のメモリ部に記憶されている電話番号を、前記ディスプレイ部に表示するとともに、前記通話処理部をして自動的にダイアリングを行わせるようになっていることが望ましい。前記メモリキーは通話キーを兼ねていることが望ましい。

【0009】

前記コントロール部は、マイクロコンピュータで構成されていることが望ましい。また、コントロール部は、前記メモリ部に記憶されている電話番号でのダイアリング後、メモリ部に記憶された電話番号を消去するようになっていることが望ましい。

【0010】

【考案の作用・効果】

本考案の電話機によれば、通話中に聞いた第三者の電話番号を電話機内部の機能を用いて記憶させ、しかもこの記憶させた電話番号を自動的にダイアリングできるようにしたので、極めて実用上の効果が大きい。また、記憶した電話番号を

ディスプレイ部に表示するようにしたので、電話番号の記憶間違いがない。

【0011】

【実施例】

以下、添付図面を参照しつつ、本発明の好ましい実施例による電話機について詳細に説明する。

【0012】

図1は、本考案の実施例による電話機の全体概略図である。この図において、符号1は電話機を示す。この電話機1は、図2に示したように、CPUで構成され、電話機全体を制御するコントロール部10を備えており、このコントロール部2には、RAM等で構成されたメモリ部11と、キー部12とが接続されている。

【0013】

電話機1は、上記キー部12およびコントロール部10に接続された通話処理部13を備えている。この通話処理部13は、キー部12を押すことによって入力された電話番号を電気信号に変換して送信するためのものである。

【0014】

上記電話機1の表面には、液晶表示装置から構成されるディスプレイ部14が設けられており、このディスプレイ部14は、上記コントロール部10によりその作動が制御されるようになっている。

【0015】

上記メモリ部11は、現在通話している電話番号を記憶するリダイヤルメモリ15、および後に説明する複数のダイヤルメモリ16、17・・・を備えている。これらのメモリは、RAMで構成することが望ましい。

【0016】

上記キー部12は、通常のテンキー部18の他、通話中のテンキー部18の操作により、電話番号をダイヤルメモリ16、17に記憶させることを支持するためのメモリキー19、このときのテンキー部18の押しに間違いがあったとき、入力中の電話番号を消去するためのコレクションキー20、およびその通話後の通話の際に押すことによって、上記ダイヤルメモリ16、17に記憶した電話番

号でのダイアリングを指示する通話キー21を備えている。

【0017】

次に、上記電話機1を用いての通話の一例について説明する。なお、現在通話中であるとして説明する。

まず、通話の相手から知りたい人の電話番号を聞く前に、メモリキー19を押して、メモリの待機を行う。この後、聞いた電話番号をテンキー部18により入力すると、この電話番号はディスプレイ部14に表示されるとともに、ダイアルメモリ16に記憶される。この電話番号のメモリを複数行う場合には、今の動作を繰り返して行えばよい。この時の電話番号の記憶は、ダイアルメモリ17・・・と順次行われる。

【0018】

この後、現在の通話の終了後、通話キー21を押す。すると、コントロール部10は、先ず、ダイアルメモリ16から記憶している電話番号を読み出し、これを通話処理部13に送り、自動的にその電話番号をダイアリングさせる。これにより、自動的に通話が行えるようになる。この時も、ダイアリングしている電話番号をディスプレイ部14に表示させる。このダイアリングの後は、ダイアルメモリ16の記憶電話番号を消去する。必要によっては、消去しなくともよい。この通話の後、再び通話キー21を押せば、同様にしてダイアルメモリ17に記憶した電話番号でダイアリングを行うことができる。

【0019】

上記実施例においては、メモリキー19、コレクションキー20、通話キー21を別々のキーで構成したが、これらのキーは、兼用させることができる。また、上記実施例では、複数の電話番号を記憶した場合、記憶した順にダイアリングする例について説明したが、例えば、通話キーの押しの後に、記憶した順の番号を押せば、その順番の電話番号をダイアリングできるようにしてもよい。さらにまた、通話中にテンキー部を押せば、メモリキー19を押さなくとも、自動的にその番号を記憶することができるようにしてもよい。